No.10

評 様式10

課題対応取組み報告書 【共通】

名称	住吉区西地域包括支援センター
提出日	令和6 年 6 月 5 日

カテゴリー（※主なものをひとつチェック）				
	☑	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☐	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（ ）		

活動テーマ	早期発見・早期対応及び伴走支援を可能にする地域ネットワークづくり
地域ケア会議から見えてきた課題	**【生活課題が重度化した認知症高齢者及び孤立する認知症高齢者の権利擁護支援】** ・認知症が悪化し本人との意思疎通が困難であったり、医療や介護サービスなど必要な支援を受け入れることが難しくなって初めて相談受付するケースがある。また、生活課題が重度化し近隣住民への迷惑行為が深刻になってから相談が寄せられるケースもあり、速やかな介入が困難であった。 ・地域包括支援センターの認知度の向上と相談しやすい関係づくりが必要。 ・地域住民へ認知症高齢者の理解促進のための継続的な啓発活動が必要。 ・地域住民が身近な地域で集える場を創設し、自立支援・重度化防止に向けた取組みが必要。
対象	地域住民（住宅居住者を中心）、地域関係者（地域活動協議会、地域振興町会等）、関係機関
地域特性	公的施設や商業施設、医療機関等も多く存在し交通機関の利便性も良く生活関連施設も充実している。一方で市営住宅等の集合集宅が点在しており居住エリアによって高齢化率が高くなったり、情報格差が生じる恐れがあることも懸念される。
活動目標	**【生活課題が重度化する前に相談支援につなぐことができ、専門職だけでなく地域とのつながりづくりなどを含む広義の伴走支援を可能にする地域ネットワークづくりを進める】** ①地域ケア会議や地域診断の情報を基に、地域住民と地域ネットワークづくりの必要性や活動目的を共有する。 ②見えてきた実状を踏まえ、地域住民や地域の関係機関と連携した活動を行う。 ③活動の必要性の理解が広がり、活動の継続性や進化がみられる。
活動内容（具体的取組み）	**①地域ケア会議や地域診断の情報を基に、地域住民と地域ネットワークづくりの必要性や活動目的を共有する。** ・地域ケア会議や地域診断の情報を基に重点的に連携する候補地域を選定。 ・前年度開催した地域関係会議を足がかりに、地域関係者に活動の必要性や目的を共有する機会を持つ。 （１）地域役員との懇談会（出張相談会の企画提案） （２）南住吉地域ネットワーク交流会「地域で共にくらす知恵」（「人生会議」(自己決定支援）理解促進と意見交換会)) **②見えてきた実状を踏まえ、地域住民や地域の関係機関と連携した活動を行う。** 地域住民や関係機関と見えてきた実状や課題や方向性を共有したうえで、地域包括支援センターの認知度の向上及び認知症高齢者の理解促進や自立支援・重度化防止に向けた取組みを行う。 （１）第1回出張相談会（福祉用具事業者と連携（歩行バランス測定会、福祉用具の活用、住宅改修のポイント)) （２）第2回出張相談会（認知症サポーター養成講座、阿倍野住宅管理センターと連携（孤独死予防の見守りの視点)) （３）第3回出張相談会（住吉警察署、大阪信用金庫、区役所地域課と連携（詐欺被害予防の取組み)) （４）第4回出張相談会（薬剤師会（薬局）と連携（薬の話)) **③活動の必要性の理解が広がり、活動の継続性や進化がみられる。** 地域ネットワークづくりを進めていくことの意義や実践効果を地域住民にフィードバックし、早期の把握・早期の対応及び伴走支援を可能にする地域づくりにつなげていく。 （１）南住吉地域ネットワーク交流会「地域で共にくらす智恵」（地域ケア会議(見えてきた課題のまとめ)、生活困窮自立支援制度学習会、意見交換会、救急カプセルの活用について))
成果（根拠となる資料等があれば添付すること）	身寄りのない高齢者や高齢者世帯が増える中、地域住民を中心に地域関係者とその他関係機関が連携し地域ネットワークづくりを進めることができた。出張相談会や交流会は他機関と連携することで権利擁護を含む認知症高齢者支援、自立支援・重度化防止に向けた取組み、地域包括支援センター・ブランチ認知度の向上と一体的に取組むことができた。アンケート結果から各回のテーマにおける関心度も高く、別の地域でも開催してほしいとの要望もあった。地域包括支援センター・ブランチを知る機会となったと回答した割合が約7割と一定の成果が得られた。
今後の課題	引き続き地域における高齢者の孤立孤独の防止に対する取り組みを進めることが必要である。個別支援から地域課題の解決を目指した地域づくりを進めるとともに、地域における興味や関心から始まる活動を巻き込みながら地域ネットワークの構築を進めていきたい。これまでつながりが薄かった関係者が新たに出会い目指す方向性を共有しながら進める過程そのものが、地域活動の持続性にもつながっていくと考える。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 6年 7月 18日 （木）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☑ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☑ 専門性　☑ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント ＊今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・地域住民に関心のあるテーマは参加しやすく、地域活動に広がりがみられる。 ・出張相談会は幅広いテーマで活動され、ネットワークづくりに成果をあげられたと思う。 ・町会で役員１人につき５名程度を担当し、月１回程度様子伺いの訪問をしている。包括職員には地域の人とたくさん接してもらい、地域住民にももっと包括を知ってほしい。